

古着で途上国支援

回収袋購入・発送しポリオワクチン

天満病院グループ寄付

天満病院グループ(徳島市蔵本町1)は、開発途上国に古着とポリオワクチンを寄付するプロジェクト「古着deワクチン」に初めて参加した。2カ月かけて33袋分(約990キ)の古着を集め、165人分のワクチンとともに寄付した。

2カ月で33袋、165人分



不要になったユニホームや古着を回収袋に詰める職員＝徳島市蔵本町1の天満病院

プロジェクトは、総合リサイクル業「日本リユースシステム」(東京)などが運営。専用の回収袋(3300円)を購入して古着を発送すると、途上国で選別・販売する仕事を生み、袋購入費の一部がワクチン代として認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを」と本委員会(東京)に寄付される仕組み。1袋で5人分のワクチン代を賄える。

きつかけは今秋、スタッフに貸与するユニホームのデザイン変更に伴って約360着が不要になったこと。また使える物を活用する方法を模索していたと

ろ、天満仁代表(53)がプロジェクトを知った。

新型コロナウイルスワクチンの接種に携わる中、多くの接種者から感謝とねぎらいの言葉を掛けられて全職員がワクチンの大切さを再認識していたこともあって、グループ全体で取り組むことにした。

職員の子どもの数と同じ約100人分のポリオワクチン寄付を目標に設定。達成するには20袋分の古着が必要でユニホームだけでは足りないため、職員に家庭内の古着の提供を呼び掛けた。9月から2カ月かけて回収し、目標を上回る33袋に達した。

天満代表は「世界では新型コロナウイルスがなお猛威を振るっているが、ポリオもまた人類を脅かす感染症の一つ。古着を提供して誰かを救える活動を、多くの人に知ってほしい」と話した。

(谷利彦)